

湧別町学校施設長寿命化計画



「義務教育学校」芭露学園【平成30年4月開校】

令和2年3月
湧別町教育委員会

目 次

目次	1～2
はじめに	3
1 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	
(1) 背景	4
(2) 目的	4～5
(3) 計画期間	5
(4) 対象施設	5
2 学校施設の目指すべき姿	
(1) 安全性	6
(2) 快適性	6
(3) 学習活動への適応性	6
(4) 環境への適応性	6
(5) 地域の拠点化	6
3 学校施設の実態	
(1) 学校施設の運営状況・活用状況等の実態	
① 対象施設一覧	7
② 児童生徒数及び学校数の変化	8～9
③ 学校施設の配置状況	10
④ 施設関連経費の推移	11
⑤ 学校施設の保有量	12
⑥ 今後の維持・更新コスト(従来型)	13
(2) 学校施設の老朽化状況の実態	
① 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価	14～16
② 今後の維持・更新コスト(長寿命化型)	17
4 学校施設整備の基本的な方針等	
(1) 学校施設の規模・配置計画等の方針	
① 学校施設の長寿命化計画の基本方針	18～19
② 学校施設の規模・配置計画等の方針	19
(2) 改修等の基本的な方針	
① 長寿命化の方針	20
② 目標耐用年数、改修周期の設定	21

5	基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	
(1)	改修等の整備水準	22
(2)	維持管理の項目・手法等	23
6	長寿命化の実施計画	
(1)	改修等の優先順位付けと実施計画	24
(2)	長寿命化のコストの見直し、長寿命化の効果	25
7	長寿命化計画の継続的運用方針	
(1)	情報基盤の整備と活用	26
(2)	推進体制等の整備	26
(3)	フォローアップ	26



湧別小学校【昭和 47 年建築（校舎）】

はじめに

平成 25 年 11 月、国は、政府全体として国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図るとともに、維持管理・更新に係る産業（メンテナンス産業）の競争力を確保するための方向性を示すものとして、国や地方公共団体、その他民間企業等が管理する全てのインフラを対象に「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、国や地方公共団体等が一丸となってインフラの戦略的な維持管理・更新等を推進することを打ち出しました。

これを踏まえ、文部科学省では、所管又は管理する施設の維持管理等を着実に推進するための中期的な取り組みの方向性を明らかにするため、「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を平成 27 年 3 月に策定しました。

一方、各地方公共団体においても、「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、インフラの維持管理・更新等を着実に推進するための中期的な取組の方向性を明らかにする計画として、「インフラ長寿命化計画」（＝公共施設等総合管理計画）を策定するとともに、個別施設毎の具体的な対応方針を定める計画として、「個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）」を策定することが求められました。

平成 26 年 4 月、総務省より各地方公共団体に対し、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための「公共施設等総合管理計画」を策定するよう要請がありました。

このため、湧別町は、保有する全ての公共施設等を対象として、施設の現況及び将来費用の見通しを推計し、将来の基本的な管理方針を示した「湧別町公共施設等総合管理計画」を平成 29 年 3 月に策定したところであります。

また、文部科学省では、各教育委員会が策定主体である「学校施設の長寿命化計画」を令和 3 年度以降の学校施設改善交付金の採択要件とする方向で検討しており、令和 2 年度までに策定することを求めています。

このような状況の中、湧別町教育委員会は、「湧別町公共施設等総合管理計画」に基づく個別施設計画のうち学校施設を対象とした「湧別町学校施設長寿命化計画」を策定するものです。

令和 2 年 3 月

1 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

(1) 背景

本町の学校施設は、各地区の児童生徒数の減少に伴って統合を伴う方式を主体として昭和47年から順次整備され、現在、その7割を超える施設が建設後30年以上を経過しております。

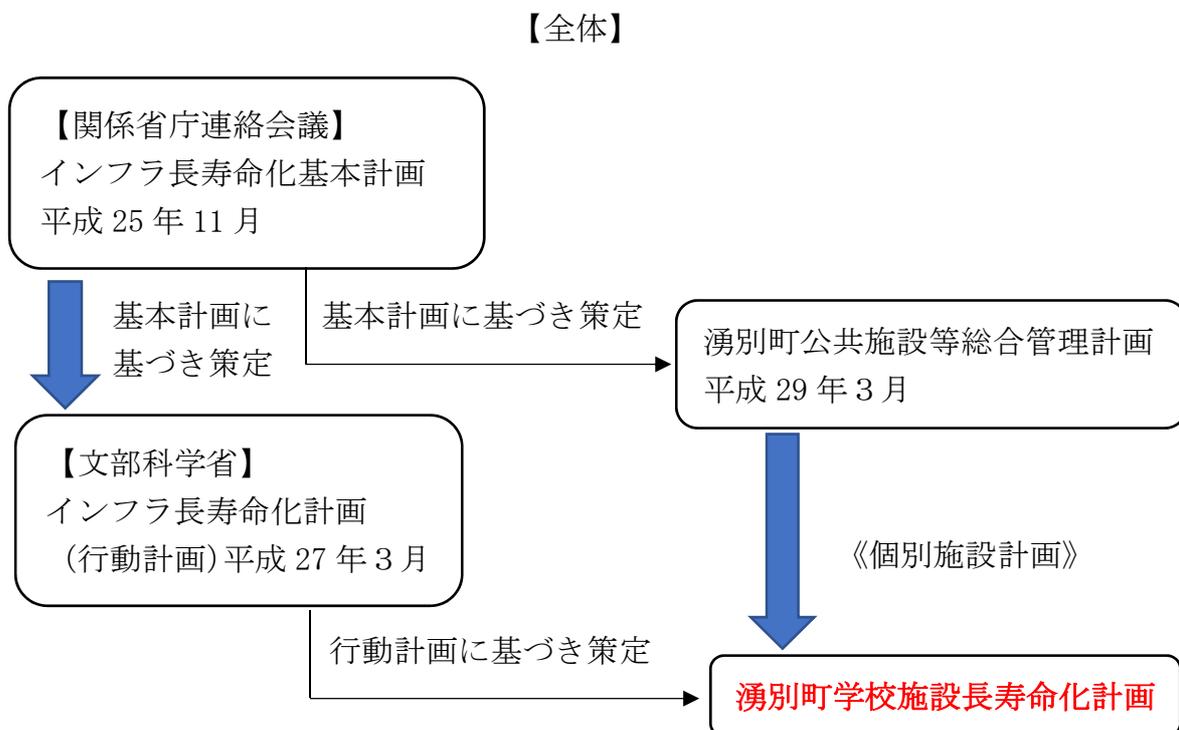
学校施設の延床面積は、全公共施設の20.0%を保有しており、厳しい財政状況の中、老朽化が進んだ施設の改築や大規模改造に多額の費用が必要になると考えられるため、これらの適正な維持管理が課題であります。

(2) 目的

「湧別町学校施設長寿命化計画」（以下「本計画」という。）は、上記の背景を踏まえて、学校施設の老朽化等の状況を把握した上で、地域における役割を含めた学校施設として求められる機能を確保するため、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現した具体的な方針・計画を示すことを目的として策定します。

なお、本計画は、「湧別町公共施設等総合管理計画」に基づく学校施設の個別施設計画として位置付けます。

(参考) 計画の位置付け



【湧別町教育委員会】

湧別町教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱
平成 29 年 6 月

湧別町学校施設長寿命化計画

相互に関係

湧別町立小・中学校
適正配置計画
平成 29 年 3 月

(3) 計画期間

本計画の期間は、令和 2 年度から令和 11 年度の 10 年間とします。

なお、進捗状況のフォローアップ結果等を踏まえて 5 年を目安に計画の見直しを行います。

(4) 対象施設

本計画の対象施設は、令和元年 5 月 1 日現在に設置している以下の学校及び共同調理場とします。

学校	小学校	5 校
	中学校	2 校
	義務教育学校	1 校
共同調理場	給食センター	1 施設

* これらの施設が保有する建築物のうち、小規模建築物（概ね 200 m²以下）を除いて、長寿命化計画を策定します。

2 学校施設の目指すべき姿

(1) 安全性

学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習活動の場であり、第一に安全で安心して利用できる施設であることが求められます。

平成 29 年度に実施した危険校舎であった芭露小学校の移転改築をもって全ての学校施設の耐震化を完了しました。

また、令和元年度には、保温材にアスベストの含有があった開盛小学校の煙突の囲い込みも完了しております。

今後は、防犯カメラの設置による防犯・事故対策にも配慮し、災害に強く、防災機能を備えたより安全で安心な学校施設を目指します。

(2) 快適性

特別な支援を必要とする児童生徒や避難時の高齢者等にも配慮したユニバーサルデザインを意識するとともに、近年の夏季の暑さに対応したエアコンなどの空調やLED照明などの施設整備を行って快適な学校施設を目指します。

(3) 学習活動への適応性

これまで余裕教室を活用した習熟度別学習や、特別支援学級に対応するために教室内のパーティション化による空間整備を行い、また、複式学級に対応した複数黒板の設置、実物投影機やタブレット端末を活用したICT環境を整備してきました。

今後は、新学習指導要領に対応したプログラミング教育や国のギガスクール構想に基づきパソコン及びネットワーク環境の整備を行うなど、さらなる学習活動に適応した学校施設を目指します。

(4) 環境への適応性

LED照明などの省エネ化や木材利用を図るなど、環境へ適応した学校施設を目指します。

(5) 地域の拠点化

令和元年度までに全ての学校でコミュニティースクール制度を導入しましたことから、地域住民との協働による学校づくりが求められています。

また、上湧別地区における学校開放事業としての利用や、災害時における避難施設としての機能も必要であります。

これらに対応した総合的な地域の拠点となる学校施設を目指します。

3 学校施設の実態

(1) 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

① 対象施設一覧

本町には、小学校5校、中学校2校、義務教育学校1校を合わせた学校8校と給食センター1施設があります。

延床面積は、小学校が13,919㎡、中学校が9,630㎡、義務教育学校が3,533㎡の学校計では27,082㎡の保有であり、給食センターは781㎡を保有しております。

(令和元年5月1日現在)

名称	住所	延床面積 (㎡)	児童生徒数 (人)		学級数 (学級)		
			通常 学級	特別 支援	通常 学級	特別 支援	
小学校	1 上湧別小学校	屯田市街地 98-1	3,115	47	4	5	3
	2 中湧別小学校	中湧別南町 914	3,791	85	6	6	4
	3 開盛小学校	開盛 462-3	1,514	8		3	
	4 富美小学校	富美 568	1,424	10		3	
	5 湧別小学校	錦町 211-1	4,075	133	6	6	3
	小学校 計		13,919	283	16	23	10
中学校	1 上湧別中学校	屯田市街地 1-1	5,246	114	5	4	2
	2 湧別中学校	錦町 223	4,384	90	3	3	2
	中学校 計		9,630	204	8	7	4
義務 教育 学校	1 芭露学園(前)	芭露 411	445	21	3	3	2
	芭露学園(後)		3,088	15	1	3	1
	義務教育学校 計		3,533	36	4	6	3
学校計			27,082	523	28	36	17
給食センター		北兵村三区 534-1	781				

② 児童生徒数及び学級数の変化

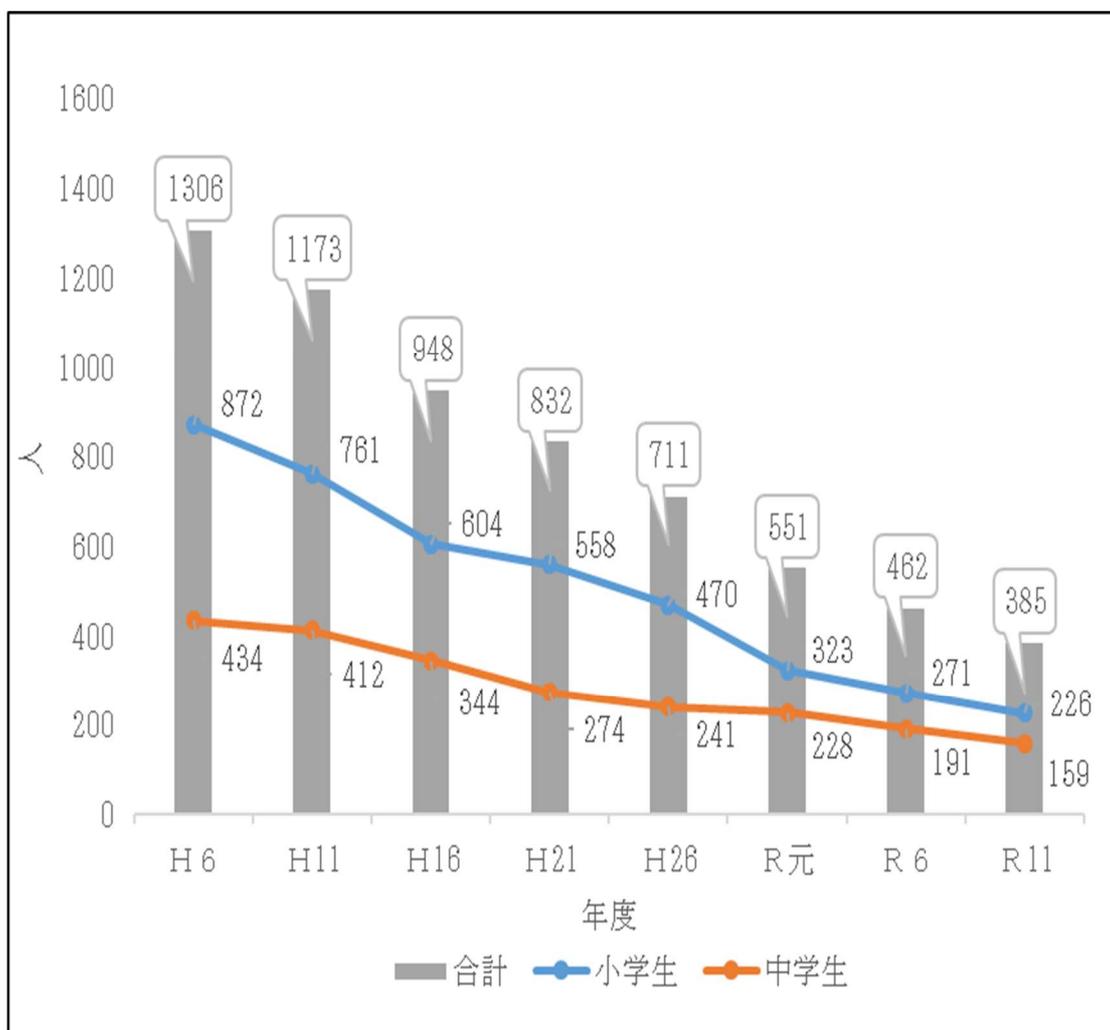
平成6年度の児童生徒数は、小学生が872名、中学生が434名の合計1,306名でありました。

一方、令和元年度は、小学生が323名、中学校生が228名の合計551名でありました。

このため、平成6年度から令和元年度の25年間における減少率は、小学生が63.0%、中学生が47.5%、そして、全体で57.8%でありました。

国立社会保障・人口問題研究所の5歳から14歳までの人口推計に基づく平均減少率を用いて算出した場合、令和11年度の児童生徒数は、小学生が226名、中学生が159名の合計385名になると想定されます。

児童生徒数の推移（R6年以降は推計）



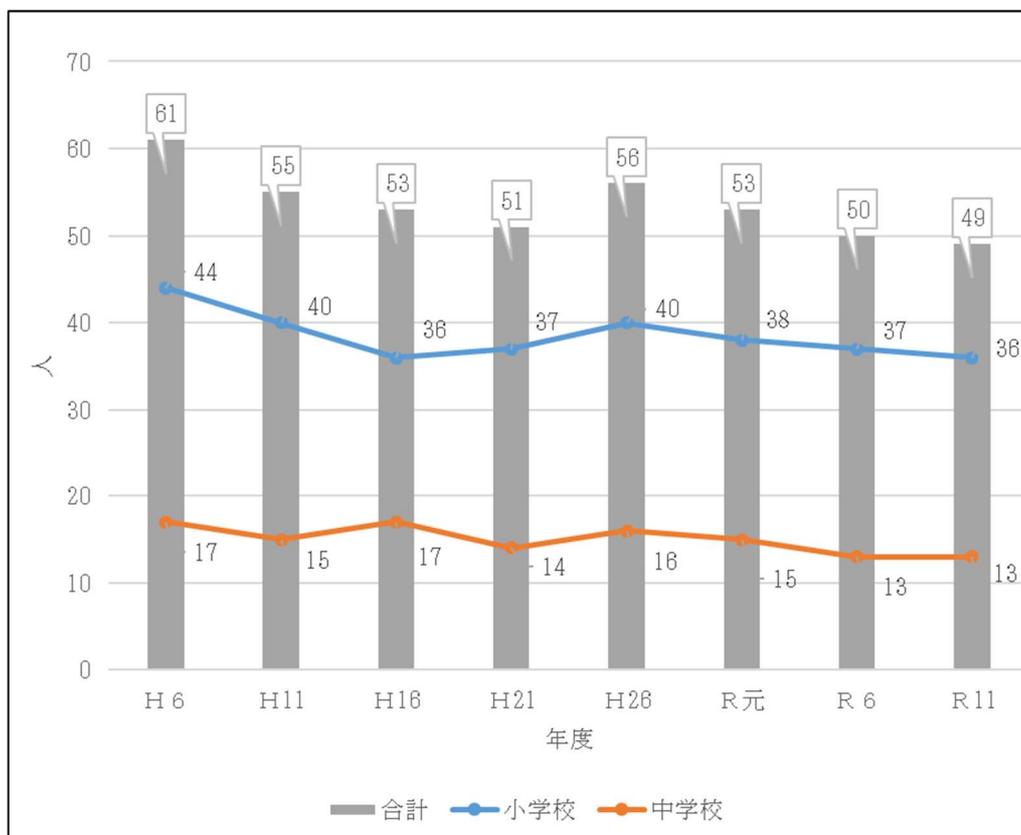
*義務教育学校については、前期課程を小学生、後期課程を中学生に含めています。

学級数を合計で見ますと、平成6年度は61学級であり、令和元年度は53学級でありますので、この25年間の減少率は13.1%となりますので、児童生徒数と比較して緩やかな減少となっております。

これは、近年、特別支援学級数が増加していることに起因しております。
今後10年間の通常学級数は、緩やかな減少で推移すると想定されます。

学級数の推移（R6年以降は推計）

区分		H6	H11	H16	H21	H26	R元	R6	R11
小学校	通常学級	42	38	32	29	27	26	25	24
	特別支援	2	2	4	8	13	12	12	12
	計	44	40	36	37	40	38	37	36
中学校	通常学級	16	14	15	11	10	10	8	8
	特別支援	1	1	2	3	6	5	5	5
	計	17	15	17	14	16	15	13	13
合計	通常学級	58	52	47	40	37	36	33	32
	特別支援	3	3	6	11	19	17	17	17
	計	61	55	53	51	56	53	50	49



*義務教育学校については、前期課程を小学校、後期課程を中学校に含めています。

③ 配置状況

本町は、オホーツク海側に位置している湧別地区に、校区が同一である湧別小学校と湧別中学校があります。

また、サロマ湖沿いに位置している芭露地区には、小中一貫教育を実践している義務教育学校芭露学園があります。

さらに、内陸に位置している上湧別地区には、上湧別中学校を中心に北に位置する中湧別小学校、やや南に位置する上湧別小学校、南西に位置する富美小学校、そして、最も南に位置する開盛小学校があります。

なお、給食センターは、上湧別地区の最北端に位置しております。



④ 施設関連経費の推移

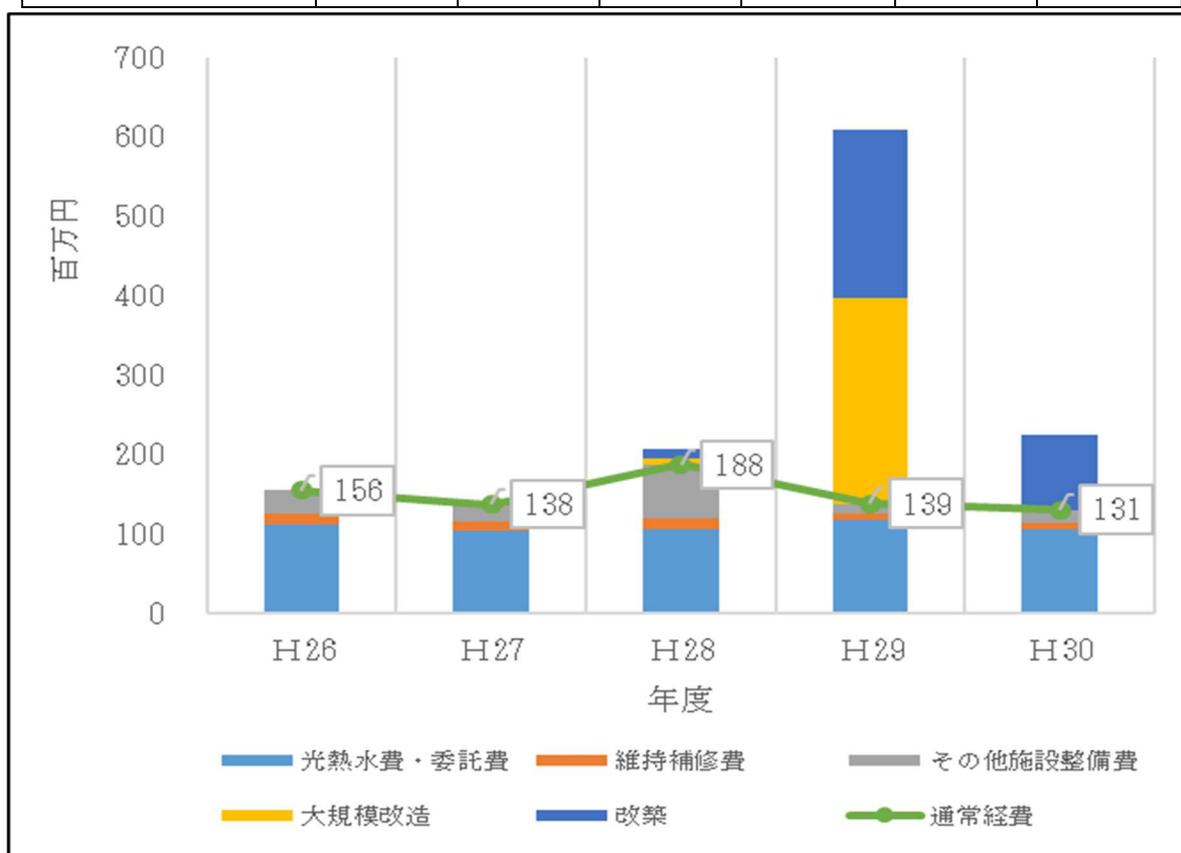
直近5年間（平成26年度から平成30年度）における学校教育施設の施設関連経費の推移は、下の表図のとおりです。

このうち、平成28年度から平成30年度に芭露小学校の危険改築と湖陵中学校の大規模改造により、5.8億円を超える経費を要しております。

また、改築と大規模改造に係る経費を除いた通常経費は、1.5億円程度で推移しております。

（単位：千円）

区分	H26	H27	H28	H29	H30	平均
改築	0	0	11,897	212,900	94,500	63,859
大規模改造	0	0	8,407	256,792	0	53,040
その他施設整備	29,624	21,060	67,311	12,972	17,518	29,697
維持補修費	13,665	12,109	12,592	7,819	6,693	10,576
光熱水費・委託費	112,282	105,085	107,815	118,046	107,260	110,098
小計	155,571	138,254	187,718	138,837	131,471	150,370
合計	155,571	138,254	208,022	608,529	225,971	267,269



⑤ 学校施設の保有量

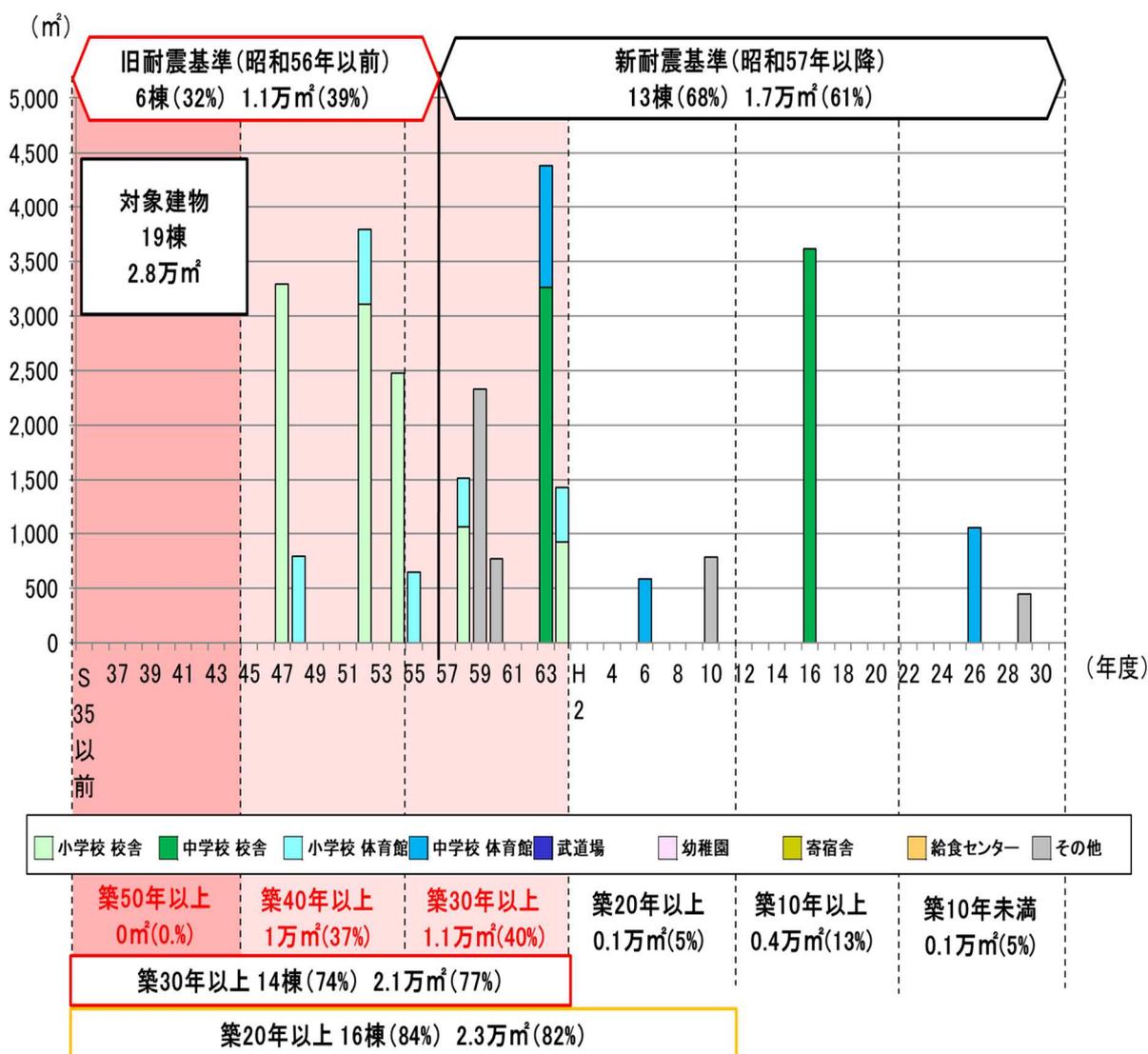
本計画対象の施設は、全体で19棟の延床面積27,863㎡であります。

このうち築30年以上経過している建物は、14棟の延床面積21,391㎡であり、延床面積全体に占める割合は、76.8%となっております。

これは、町の公共施設全体の43.1%に対して1.78倍であり、特に老朽化が進んでいる状況にあります。

10年後には、さらに2棟の延床面積1,363㎡が築30年以上経過した建物に加わるため、延床面積全体の81.7%を占めることとなります。

築年別整備状況



⑥ 今後の維持・更新コスト（従来型）

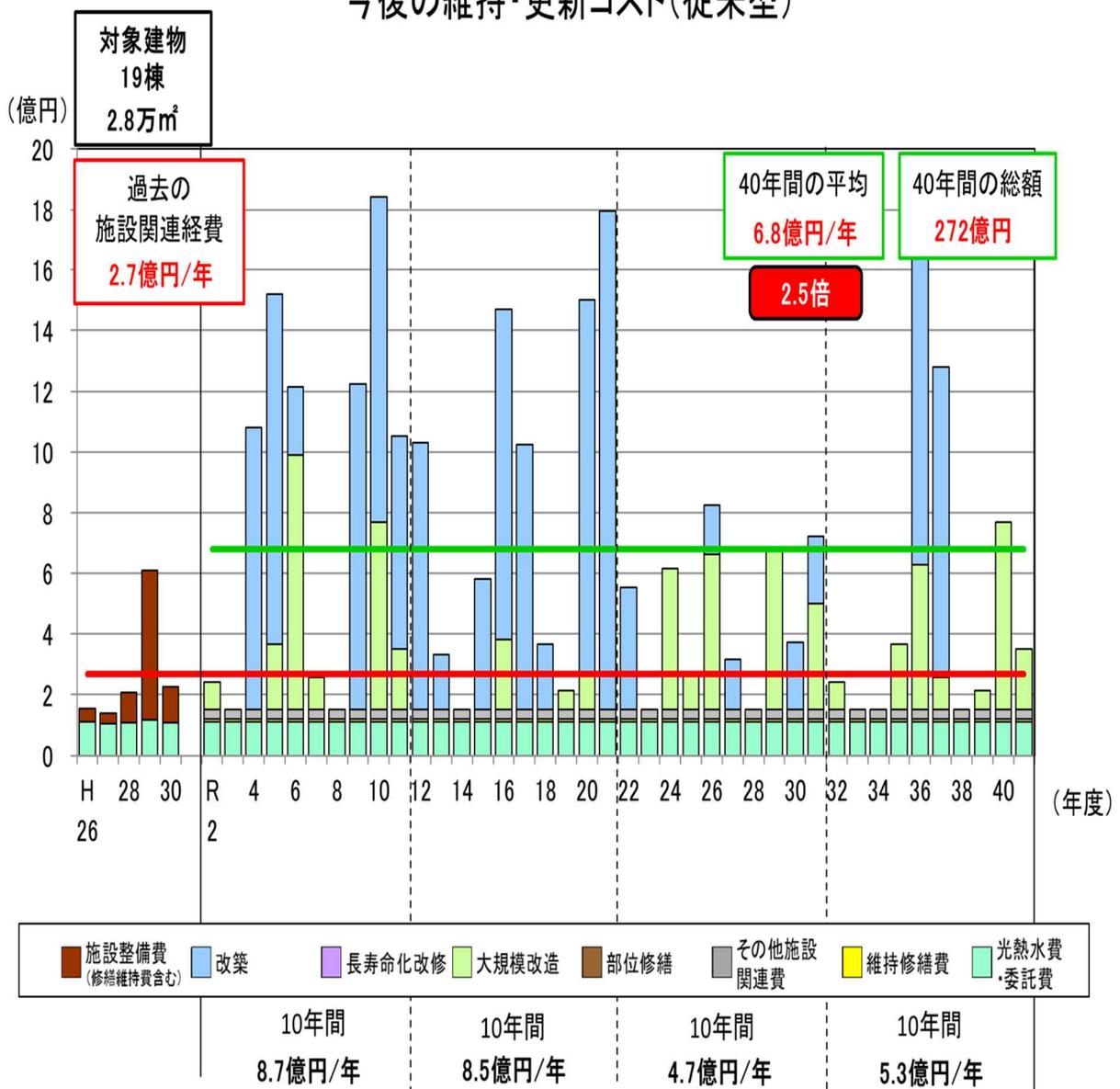
40年間で建て替える従来の修繕・改修を今後も続けた場合は、今後40年間のコストは、272億円（6.8億円/年）を要します。

これは、直近5年間の施設関連経費2.7億円/年の2.5倍にあたります。

また、令和2年度から11年度までの10年間では、改築が集中するため、経費は、8.7億円/年となり、これは、直近5年間の3.2倍を要します。

従来の建て替え中心の整備を継続することは町財政を圧迫しますので、対応策を検討する必要があります。

今後の維持・更新コスト(従来型)

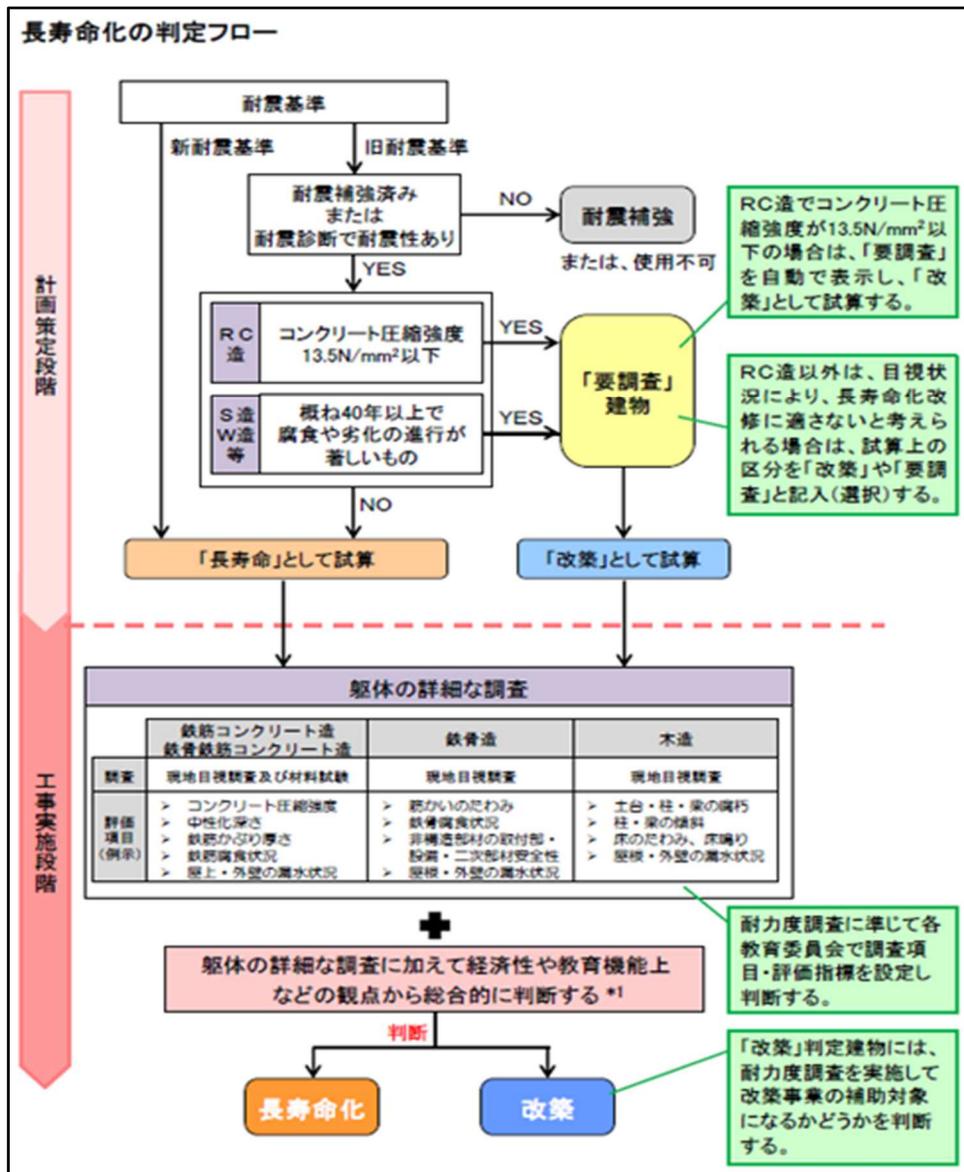


(2) 学校施設の老朽化状況の実態

① 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

構造躯体の健全性の評価については、旧耐震基準によって建築された施設は6棟ありますが、全て耐震補強されておりますので、新耐震基準によって建築された13棟とあわせた19棟全てで、長寿命化改修が可能と判断できます。

しかしながら、湧別小学校の校舎及び体育館は、築46年以上経過して老朽化が進んでおり、新增築のうえ湧別中学校と統合のうえ、新たに義務教育学校として設置する考えでありますことから、試算上、湧別小学校の校舎と体育館の2棟を改築とし、残る17棟を長寿命化改修として区分します。



(文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より)

次に、構造躯体以外の劣化状況等の評価については、劣化状況調査表を用いて、構造躯体以外の劣化状況を把握し、屋根・屋上、外壁は目視状況により、内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価しました。

評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

経過年数による評価 【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

健全度の算定

健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標である。①部位の評価点と②部位のコスト配分を下表のように定め、③健全度を100点満点で算定する。なお、②部位のコスト配分は、文部科学省の「長寿命化改良事業」の校舎の改修比率算定表を参考に、同算定表における「長寿命化」の7%分を、屋根・屋上、外壁に按分して設定している。

①部位の評価点

評価	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

③健全度

$$\text{総和(部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分)} \div 60$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。
※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

(右図「劣化状況調査票」記入例における健全度計算例)

部位	評価	評価点	配分	計算
1 屋根・屋上	C	40	5.1	204
2 外壁	D	10	17.2	172
3 内部仕上げ	B	75	22.4	1,680
4 電気設備	A	100	8.0	800
5 機械設備	C	40	7.3	292
計				3,148
				÷ 60
健全度				52

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60

(文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より)

建物劣化状況については、下表のとおりです。

湧別小学校を除く全ての学校施設の校舎・体育館ともにB評価以上となりました。

また、健全度の点数が50点を下回っているのは、湧別小学校の体育館のみです。

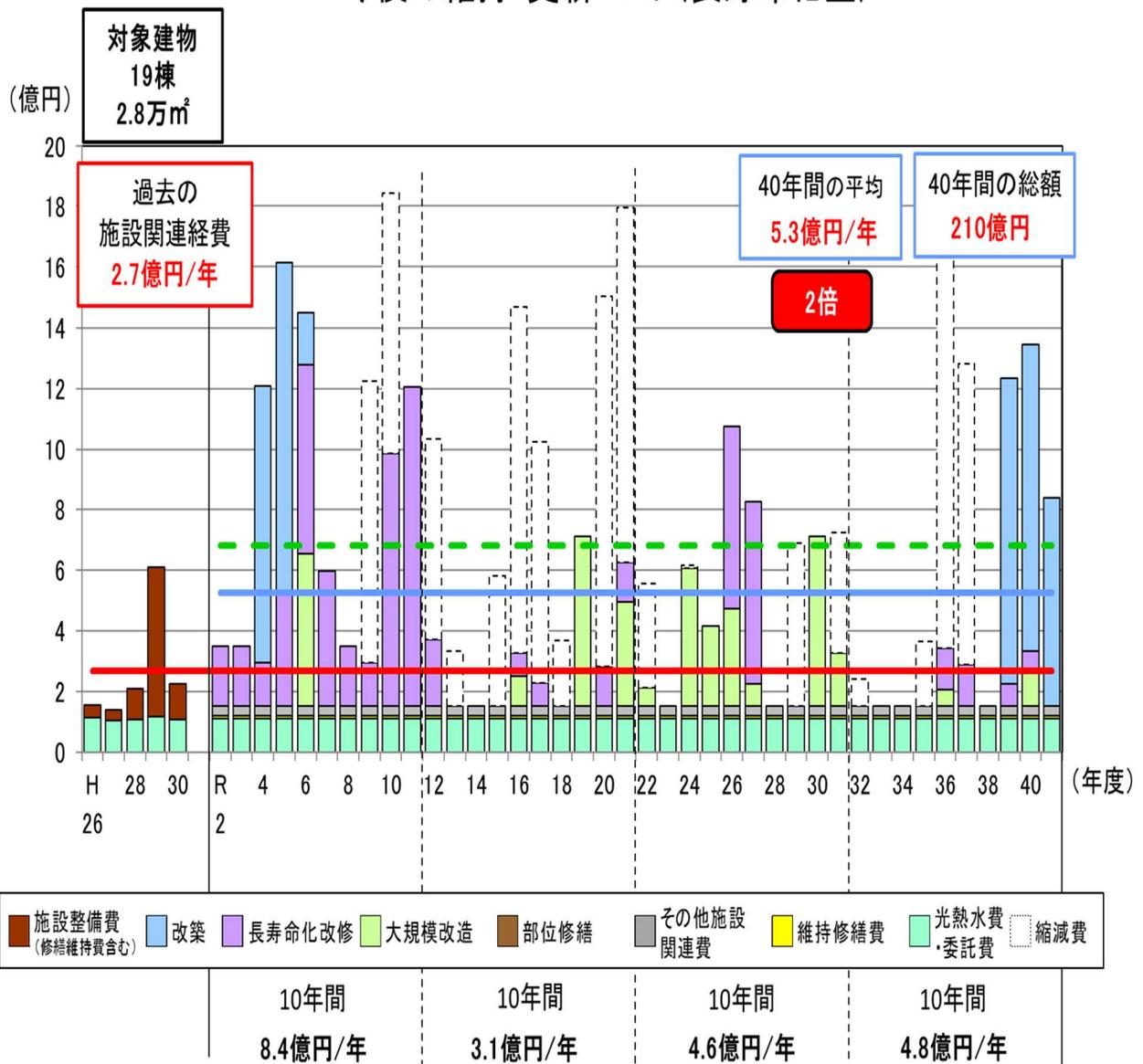
建物基本情報											構造躯体の健全性				劣化状況評価										
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度		耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)	
						学校種別	建物用途				西暦	和暦	築年数	基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/mm ²)							試算上の区分
1	2045	上湧別小学校	校舎	017	502	小学校	校舎	RC	2	2,476	1979	S54	40	旧	済	済	H20	21	長寿命	A	B	A	A	A	93
2	2045	上湧別小学校	体育館	018,019	502	小学校	体育館	S	1	639	1980	S55	39	旧	済	済	H20	21	長寿命	A	B	A	A	A	93
3	2046	中湧別小学校	校舎	017,018	513	小学校	校舎	RC	2	3,104	1977	S52	42	旧	済	済	H20	21	長寿命	A	B	A	A	A	93
4	2046	中湧別小学校	体育館	020,021,022	513	小学校	体育館	S	2	687	1977	S52	42	旧	済	済	H20	21	長寿命	A	B	A	A	A	93
5	2047	開盛小学校	校舎	006	495	小学校	校舎	RC	2	1,055	1983	S58	36	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
6	2047	開盛小学校	体育館	007-1・-2	495	小学校	体育館	S	1	459	1983	S58	36	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
7	2048	富美小学校	校舎	009	516	小学校	校舎	RC	1	922	1989	H元	30	新	-	-			長寿命	A	A	B	B	B	84
8	2048	富美小学校	体育館	011	516	小学校	体育館	S	1	502	1989	H元	30	新	-	-			長寿命	A	A	B	B	B	84
9	2052	湧別小学校	校舎	001-1・-2・-3,002	520	小学校	校舎	RC	2	3,287	1972	S47	47	旧	済	済	H19	17.6	改築	B	C	B	B	B	65
10	2052	湧別小学校	体育館	003	521	小学校	体育館	S	2	788	1973	S48	46	旧	済	済	H19	17.6	改築	B	C	C	C	C	43
11	4759	上湧別中学校	校舎	031,032	505	中学校	校舎	RC	1	3,613	2004	H16	15	新	-	-			長寿命	B	B	A	A	A	91
12	4759	上湧別中学校	体育館1	033,034,035,036	507	中学校	体育館	S	2	1,051	2014	H26	5	新	-	-			長寿命	A	B	A	A	A	93
13	4759	上湧別中学校	体育館2	037	503	中学校	体育館	S	1	582	1994	H6	25	新	-	-			長寿命	A	B	B	B	B	77
14	4761	湧別中学校	校舎	001	523	中学校	校舎	RC	2	3,258	1988	S63	31	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
15	4761	湧別中学校	体育館	002-1・-2・-3,003	524	中学校	体育館	S	2	1,126	1988	S63	31	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
16	C014	巴路学園(前期)	校舎	001	738	義務教育学校	校舎	RC	1	445	2017	H29	2	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
17	J014	巴路学園(後期)	校舎	001	498	義務教育学校	校舎	RC	2	2,326	1984	S59	35	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
18	J014	巴路学園(後期)	体育館	003	496	義務教育学校	体育館	S	1	762	1985	S60	34	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
19	K145	湧別町学校給食センター	給食センター	005	525	給食センター	給食センター	RC	1	781	1998	H10	21	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75

② 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

建て替え中心から改修による長寿命化に切り替えていくためには、計画的に機能向上と機能回復に向けた修繕・改修を建物全体でまとめて実施する必要があります。

長寿命化により建物の使用年数を80年にした場合、今後40年間の維持・更新コストは、総額210億円（5.3億円/年）となり、従来の建て替え中心の場合より、総額62億円（1.5億円/年）、22.8%の縮減を図ることができます。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



4 学校施設整備の基本的な方針等

(1) 学校施設の規模・配置計画等の方針

① 学校施設の長寿命化計画の基本方針

上位計画である湧別町公共施設等総合管理計画の「公共施設等の管理に関する基本方針」や「施設類型方針」に基づき、今後の学校施設の長寿命化計画の基本方針を示します。

公共施設等 総合管理計 画の基本方 針	<ol style="list-style-type: none">1) 統合や廃止の推進方針<ul style="list-style-type: none">○10年毎に公共施設の総面積を10%削減します。○公共施設統廃合実行計画を策定します。○施設評価を実施して、統廃合を検討します。2) 耐震化の実施方針<ul style="list-style-type: none">○耐震化が図られていない5施設のうち、将来も継続利用することとした施設は、耐震補強工事を早期に実施します。3) 維持管理、修繕、更新等の実施方針<ul style="list-style-type: none">○「公の施設の管理運営方針」の施設管理の基本的決定プロセスに従い、効率的で経済的な管理を進めていきます。4) 点検・診断等の実施方針<ul style="list-style-type: none">○全施設の点検・診断を統一した実施間隔と手法により実施し、結果を一元管理してデータ蓄積をすることで、各施設の劣化を相対的、客観的に把握することとします。5) 安全確保の実施方針<ul style="list-style-type: none">○点検・診断から安全状の危険性が見られた場合は、利用停止等の安全確保に努めます。修繕工事が必要な場合は、施設の重要性、利用状況、経年劣化状況、修繕履歴を勘案して、効率的な予算投入に努めます。6) 長寿命化の実施方針<ul style="list-style-type: none">○アセットマネジメントの考え方をベースに長寿命化を図ります。7) 総合的かつ計画的な管理を実現するための体制の構築方針<ul style="list-style-type: none">○公共施設マネジメント検討委員会を中心として総合的かつ計画的な管理を推進します。
------------------------------	--

公共施設等 総合管理計 画の施設類 型別方針 【学校】	<p>○施設評価による施設優先度判定と統廃合方針決定は採用せず、教育委員会が決定する配置計画に委ねて学校を管理することとします。</p> <p>○不用な学校施設（校舎・教室・体育館・グラウンド）などが発生する場合には、有効活用策として地域集会施設・児童保有施設など学校以外の機能を持たせた複合化・機能移転など多角的に活用策を検討することとします。</p>
---	---



学校施設の 長寿命化計 画の基本的 な方針	<ol style="list-style-type: none"> 1) 統合や廃止の推進方針 ○湧別町立小・中学校適正配置計画に基づいて実施します。 2) 耐震化の実施方針 ○全ての学校施設で耐震化が完了しております。 3) 維持管理、修繕、更新等の実施方針 ○予防保全型維持管理を推進し、ライフサイクルコストの削減に努めるとともに資産を計画的かつ効率的に管理します。 4) 点検・診断等の実施方針 ○日常点検のほか、建築基準法第12条の点検に準じた定期点検を実施して、劣化状況を把握します。 5) 安全確保の実施方針 ○児童生徒をはじめ利用者の安全を第一に考えた施設の安全管理に努めます。 6) 長寿命化の実施方針 ○施設の長寿命化に資する修繕を検討し、予防保全を推進することで施設の長寿命化に努めます。 7) 総合的かつ計画的な管理を実現するための体制の構築方針 ○本計画所管の教育総務課のほか、公共施設等総合管理計画所管課等との連携体制を構築します。
--------------------------------	---

② 学校施設の規模・配置計画等の方針

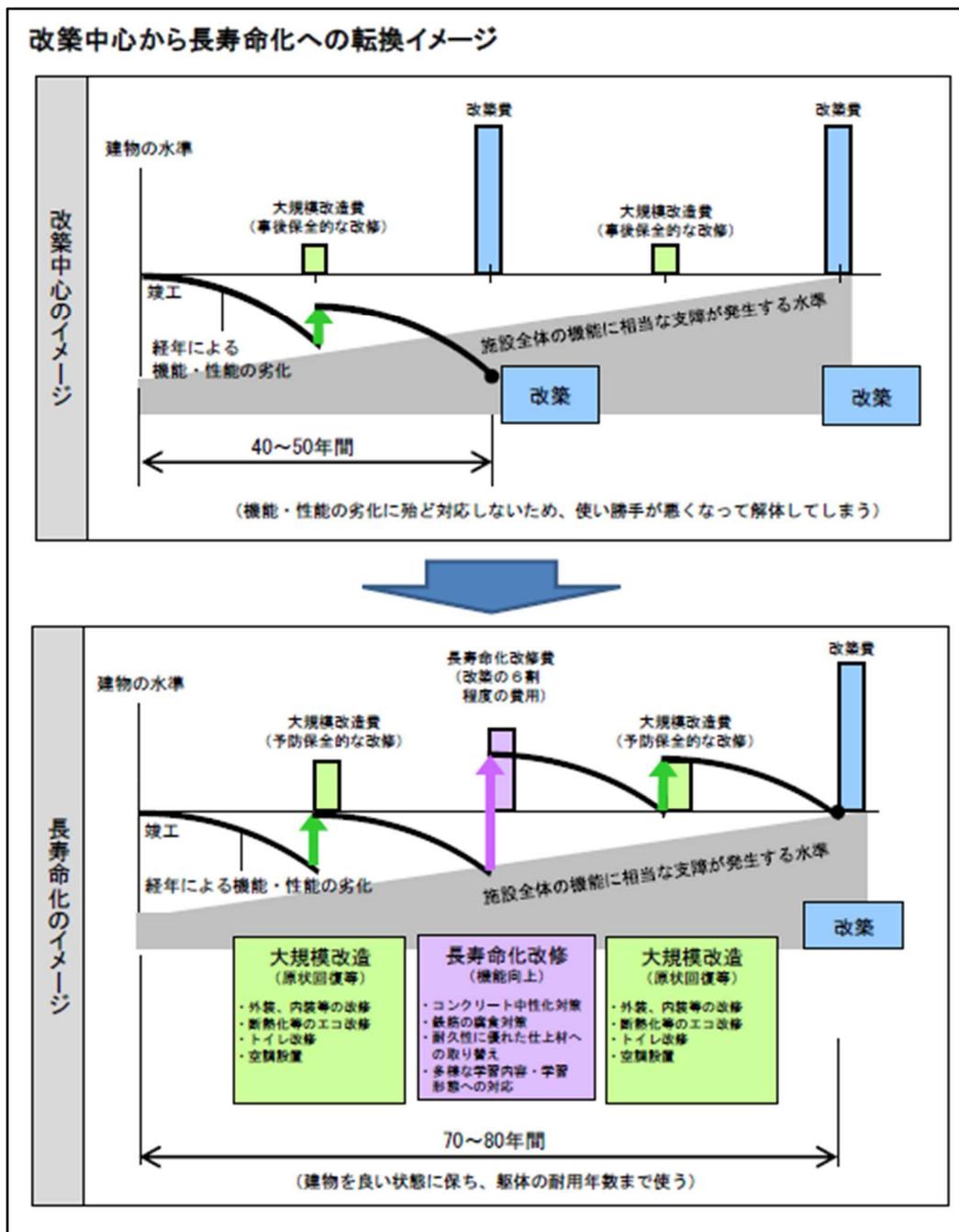
平成29年度から令和3年度までの5年間については、平成29年2月に策定した湧別町立小・中学校適正配置計画において示しております。

また、令和4年度以降5年間の義務教育学校全体の配置計画については、令和2年度から策定作業を行いますので、この中で検討することとします。

(2) 改修等の基本的な方針

① 長寿命化の方針

今後は、建て替えから長寿命化改修による建物の長寿命化に切り替え、部位改修を併用した整備を行います。



(文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より)

② 目標耐用年数、改修周期の設定

学校施設の目標使用年数、大規模改造の周期は、長寿命化改修の周期は、次のとおりとします。

区分	目標使用年数	大規模改造の周期	長寿命化改修の周期
校舎 体育館 給食センター	80年	築 20年	築 40年



上湧別中学校【平成16年建築（校舎）】

5 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

(1) 改修等の整備水準

構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など、現代の社会的要請に応じるための改修を行うことが重要であります。

改修等の整備水準は、安全・機能・環境面の3項目で次の点を優先とします。

(安全面)

- ・内装：床・壁・天井改修、建具改修、収納家具等の補修・更新
- ・外装：仕上げ改修（板金張り・塗装等）、クラック補修等、屋上防水
- ・防犯対策：防犯カメラの設置

(機能面)

- ・設備（空調、給排水等）：エアコン導入、給排水設備の適正更新
- ・ICT設備：児童生徒1人1台端末、高速大容量のネットワーク環境の整備
- ・バリアフリー：ユニバーサルデザイン化

(環境面)

- ・断熱・日射遮断・遮音性能：費用対効果の高い方式を採用
- ・設備の高効率化：高効率ボイラー等の導入、LED照明への切り替え
- ・木材利用：内装において木のぬくもりを感じ取れる仕様

<p>①建物の耐久性を高めるもの</p> <ul style="list-style-type: none">・ 構造躯体の長寿命化を実施するもの（コンクリートの中性化対策や鉄筋の腐食対策等）・ 耐久性に優れた材料等を使用するもの（劣化に強い塗装・防水材等の使用）・ 維持管理や設備更新の容易性を確保するもの・ 水道、電気、ガス管等のライフラインの更新	 <p>中性化対策のための抑制剤やアルカリ性付与剤の塗布</p>	 <p>耐久性に優れた屋根材の一例（カラーガルバリウム鋼板）</p>
<p>②現代の社会的要請に応じるもの</p> <ul style="list-style-type: none">・ 少人数指導など多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供・ 断熱、二重サッシ、日射遮蔽等の省エネルギー対策	 <p>水道管 ガス管 改修後</p>	 <p>改修前 埋設されていた配管を改修の際に露出化</p>
	 <p>様々な学習内容・学習形態に対応できる多目的スペースを整備</p>	 <p>外断熱、自然光利用、自然換気などのエコ改修</p>

(文部科学省「学校施設の長寿命化改良の手引き」より)

(2) 維持管理の項目・手法等

施設管理者による清掃と日常点検、専門業者による特別清掃や電気・機械等設備の法令点検と整備を行います。

また、建築基準法第 12 条に準じて、3 から 5 年の周期で下表のと通りの点検項目に基づいた調査を実施します。

劣化状況調査票 (例)

通し番号	XXXX-XX-X				
学校名	A学校	学校番号	1301		
建物名	校舎		調査日	平成28年9月20日	
棟番号	1	建築年度	昭和44 年度 (1969 年度)		
構造種別	鉄筋コンクリート造	延床面積	2,562 m ²	階数	地上 3 階 地下 0 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)		特記事項	評価
		年度	工事内容	箇所数			
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水	H7	防水改修	<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある		EXP-J金物に脱落がある	C
	<input type="checkbox"/> アスファルト露出防水			<input checked="" type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある	2		
	<input checked="" type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水			<input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板)			<input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類)			<input checked="" type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある			
	<input type="checkbox"/> その他の屋根 ()			<input type="checkbox"/> 樋やルーフトンを目視点検できない			
2 外壁	<input checked="" type="checkbox"/> 塗仕上げ	H3	外壁改修	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある	5	北側の劣化	D
	<input checked="" type="checkbox"/> タイル張り、石張り	H10	耐震補強	<input checked="" type="checkbox"/> 外壁から漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 金属系パネル			<input checked="" type="checkbox"/> 塗装の剥がれ	多数		
	<input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等)			<input checked="" type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている			
	<input type="checkbox"/> その他の外壁 ()			<input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある			
	<input checked="" type="checkbox"/> アルミ製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 鋼製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	<input type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス			<input type="checkbox"/> 外部手すり等の錆・腐朽			
				<input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			

部位	改修・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input checked="" type="checkbox"/> 老朽改修	H5	大規模改造	B
	<input type="checkbox"/> エコ改修			
	<input type="checkbox"/> トイレ改修			
	<input type="checkbox"/> 法令適合			
	<input type="checkbox"/> 校内LAN			
	<input type="checkbox"/> 空調設置			
	<input type="checkbox"/> 障害児等対策			
	<input type="checkbox"/> 防犯対策			
4 電気設備	<input checked="" type="checkbox"/> 分電盤改修	H22		A
	<input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事			
	<input checked="" type="checkbox"/> 昇降設備保守点検	H18	指摘無し	
	<input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修			C
	<input type="checkbox"/> 排水配管改修			
	<input checked="" type="checkbox"/> 消防設備の点検	H27	指摘への対応済み	
	<input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事			

6 長寿命化の実施計画

(1) 改修等の優先順位付けと実施計画

改修等の優先順位は、建築後の経過年数と、大規模改修の実施状況により、下表のとおりグループ分けをします。

このグループ分けの順位を基本として、施設の健全度や工事の効率性を総合的に勘案して決定します。

また、整備内容や手法等については、財政状況を十分に踏まえながら、毎年度の予算編成と合わせて検討していくことします。

なお、湧別地区においては、第1グループの湧別小学校と第2グループの湧別中学校を統合のうえ義務教育学校として開設することを予定しており、手法としては、湧別小学校を新增築のうえ湧別中学校へ統合するもので、その際、湧別中学校の統合改修をあわせて実施する考えであります。

優先順位	基準	学校施設名称
第1グループ	築46年以上かつ 大規模改修後10年以上	湧別小学校 校舎・体育館
第2グループ	築31年以上かつ 大規模改修未実施	開盛小学校 校舎・体育館 湧別中学校 校舎・体育館
第3グループ	築21年以上かつ 大規模改修未実施	富美小学校 校舎・体育館 上湧別中学校 体育館2 給食センター
第4グループ	築20年以内	上湧別中学校 校舎
第5グループ	大規模改修後 10年以内	上湧別小学校 校舎・体育館 中湧別小学校 校舎・体育館 芭露学園 後期校舎・体育館
第6グループ	築10年以内	上湧別中学校 体育館1 芭露学園 前期校舎

(2) 長寿命化のコストの見直し、長寿命化の効果

長寿命化による今後 40 年間の学校施設の維持・更新コストは、従来型が、過去 5 年間の施設関連経費の 2.5 倍になるのに対し、長寿命化型だと 2.0 倍までに低減することができ、総額でも 62 億円（1.5 億円／年）と 22.8%の縮減を図ることができます。

区分	今後 40 年間の平均額	過去 5 年間の比較	今後 40 年間の総額
従来型	6.8 億円／年	2.5 倍	272 億円
長寿命化型	5.3 億円／年	2.0 倍	210 億円
縮減効果の見込み	1.5 億円／年	0.5 倍	62 億円
* 過去 5 年間の平均額 2.7 億円／年			

しかしながら、児童生徒数が減少する中で、施設の維持・更新費用が増加するという矛盾を抱えており、施設保有の在り方、維持・更新コストの削減及び財源確保が、大きな課題となります。

個々の学校施設の長寿命化だけでは限界があることから、財政制約ラインとコストの乖離を埋めていくために、学校施設の配置や規模、運営面・活用面等に及ぶ多面的な見直しが必要であります。

具体的には、学校施設の統合や減築を検討して、結果として閉校となる学校施設を地域の資産として捉えて、別目的の施設として利用するなどの手法を取り入れることが考えられます。

芭露地区は、平成 30 年度に小・中学校を統合のうえ義務教育学校として開設済みであり、また、湧別地区においても小・中学校を統合のうえ義務教育学校として整備するため、その整備に必要となる工事の設計を令和 2 年度から実施する予定であります。

一方、上湧別地区においては、1つの中学校に対して4つの小学校があり、改修等の優先順位が高い第2及び第3グループには、複式を中心とした3学級編成の開盛小学校と富美小学校が位置付けられています。

また、第4グループには上湧別中学校も位置付けられていますので、学校施設の維持・更新コストの削減という観点では、上湧別中学校を中心として施設一体型義務教育学校の設置を検討することも考えられます。

7 長寿命化計画の継続的運用方針

(1) 情報基盤の整備と活用

本計画を策定するために現地調査を含めて収集した学校施設の基本情報、光熱水費・委託費、維持修繕費、その他施設整備費の蓄積データ、工事履歴、劣化状況等を一元的に把握し、効率的・効果的な維持管理を行った上で、学校施設を適切に管理していきます。

(2) 推進体制等の整備

本計画は、学校施設を所管する教育委員会教育総務課が中心となって推進していくこととし、学校開放事業担当の社会教育課、技術職員が在籍する建設課、上位計画である湧別町公共施設等総合管理計画と財政を所管する企画財政課との連携を図りながら、全庁的な体制で対応していきます。

また、学校施設の維持管理については、学校管理者による日常点検や各種法定点検結果に基づき、不具合箇所の早期把握と修繕対応を図っていきます。

(3) フォローアップ

本計画は、学校施設の長寿命化改修や整備等の方向性を示すものですが、学校施設の機能・性能を維持していくため、今後は、基本的に長寿命化改修等を進めていきます。

一方、令和4年度からの5年間を期間とする湧別町立小・中学校適正配置計画を策定した際、学校施設の統合や他目的への利用等を方針で示した場合は、これに伴って、本計画の内容を見直しすることします。

また、計画期間の範囲内であっても、定期的に学校施設の劣化調査等を行い、点検・評価するとともに、社会状況の変化等を踏まえて、5年を目途に本計画の見直しを行います。

湧別町学校施設長寿命化計画

令和2年3月

湧別町教育委員会 教育総務課 学校教育グループ

〒099-6404 紋別郡湧別町栄町 219 番地の1

電話:01586(5)3143 FAX:01586(5)3710

E-mail:kyoikusomu@town.yubetsu.lg.jp